

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がありユニット内に掲示している。	法人苗場福祉会の基本理念を基に、ユニット理念を掲げ、その理念に沿った事業計画が毎年更新されている。毎月スローガンを掲げ、ユニット会議にて達成度の評価を行い、未達成時は継続とするなど、日々の支援の基本姿勢としている。今月は「思いやりを持って行動しよう」と、利用者支援に留まらず働く職員のチームワークについてもお互いに意識しながら日々の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は行事などに地域の方も招き参加してもらっていたが、コロナ禍のため地域との関わりや交流は減っている。	以前は地域との交流に力を入れ、多くの関わりの場や時間を作る事に力を入れている業所でもあった。コロナ禍により、地域との交流が少ないことを気に掛けながら、ブログの発信や町内会への広報誌の回覧を通して地域との関わりを図るなど、今出来ることを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は苗場カフェを開催し地域の方々に向けて取り組みを行っていたが、今現在はコロナ禍ため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため書面開催を実施している。議事録を地域の方々に配布している。ご意見を頂くこともある。	会議は書面にて開催され、会議メンバーは家族、民生委員、区長、市包括支援センターなど、以前は利用者が参加することもあった。地域へは回覧にてお知らせしている。内容については行事や事業についての報告が主で、地域や家族からの意見や感想を頂くことは少ない。職員へは毎月の会議の席で報告を行っている。	運営推進会議は感染症を意識し、書面にて開催されている。主に事業所から行事の様子や事業報告事を行い、関係者に送付している。しかし地域密着事業所の目的の一つでもある、家族や地域の意見や声を拾うことや、参加者については地域のモニタリング役になってもらうなど、サービス向上に活かす事業所の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政報告時などに担当者へ相談等行ったりしている。分からないことがあれば電話連絡し聞いたり、情報共有行っている。	市職員に運営推進会議に参加をしてもらい、入所に関する相談や感染症に関することなど、連絡を密に取り合っている。最近では家族の引っ越しに伴い、高齢者が一人暮らしになることから、入所についての相談など地域包括支援センターより助言を受けて、事業所の取り組みを伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月委員会を開催し身体拘束を廃止するための話し合いを行っている。また、年に2回の勉強会を実施し身体拘束をしないケアについて取り組みを実施している。	法人の「高齢者虐待防止身体拘束防止委員会」が中心となり、研修会を通して身体拘束についてを学んでいる。不適切ケアに関しては日々の気付きを意見としてポストに投函、会議にて話し合い、身体拘束を行わないケアに努めている。センサー使用の方は2名おられ、家族には丁寧に説明を行い、毎月見直しを行い慎重に対応している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の勉強会を実施している。また、不適切なケアを防止するため報告書を活用し自身のケアについて振り返りをしたり、検討会を実施している。	法人委員会を中心に年2回研修会を行い、虐待の防止に努めている。参加出来なかった職員については伝達研修を行い全職員が受講している。また法人アンケートを実施し、自己点検を通して虐待への気付きに繋がっている。ストレスチェックについては、法人保健師による相談がいつでも出来るなど、働きやすい環境作りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用されているお客様はいないが必要であればご家族に相談等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書について説明を行いご理解いただけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回顧客満足度アンケートを実施している。頂いたご意見について1つ1つ改善策を検討しご家族様全員にお返している。	法人の委員会より、年1回利用者、家族向けにアンケートを実施し広く意見を聞いている。処遇面では入浴についての要望や設備面では外気浴の時、太陽光線がまぶしいとの要望が利用者より上がり、カーテンの取付けを行った。随時意見を聞きながら対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議内で業務内容等の意見を聞いて検討を実施している。	毎月のユニット会議の席にて職員からの意見や要望を聞く機会の一つと捉えている。また休暇については全員が取得出来るよう計画的に行っている。異動や勤務体系については、一人ひとりの職員に配慮した勤務体系を継続するなど、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	上期、下期と個人目標を立ててもらい、自己目標に向かって取り組みをしてもらっている。進捗確認などを実施しながら目標達成できるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施している。報告書に理解したことや今後実践していく目標を決めて2ヶ月後に自己評価を実施してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での座談会や研修などに参加してもらっている。同じ立場の職員と交流し意見交換を行える場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時には困りごとや要望などを細かく聞き取りケアプランに入れ込み、安心した生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時には困りごとや要望などを細かく聞き取りケアプランに入れ込み、安心した生活が送れるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を踏まえて、必要時には他のサービス利用も検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活で行っていたことがグループホームでも続けられるよう自立支援に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診などご家族に支援して頂ける事はご協力頂いている。	定期受診は家族にお願いしているが、対応できない方や往診の方、遠方の方など、随時相談しながら要望に添い対応している。家族受診の際は受診連絡票を活用し確実に状態が医師に伝わるよう工夫している。衣類の入れ替えや必要な備品等、利用者が困らないよう、常に連絡を取り合いながら共に支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で遠方から面会に来られなくなったご家族様にテレビ電話や写真付きのお手紙などをお渡りするなどの対応をしている。	馴染みの場に出かけたり、親しい方と合う機会は減少しているが、リモートによる面会、窓越しの面会など、工夫しながら対応している。また鉄道関係OBの方に対して、会報を届けて下さる方もおられ、出来ることや可能なことを取り入れながら繋がり継続を図っている。馴染みの床屋さんとは、会話を通して「楽しみの機会」とするなど支援に努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事企画など、お互いに協力しながら取り組めるレクリエーション活動や調理などをしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じてご家族様の相談や支援を努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング時、ご本人、ご家族の希望を聞き取りその方に合わせたケアプラン内容を検討し実施している。	入所時に家族からの話や日々の会話、アセスメントを通して意向の把握に努めている。同敷地内の事業所に入所されている家族に売店で購入されたお菓子を届ける方もおられる。パン屋さんの販売があり楽しみにされている方やカタログを見ながら敷地内のコンビニで買い物など、日々の暮らしについて要望を聞きながら対応している。家族については要介護3など、状態が変化した時は住み替えも選択肢の一つとするなど、丁寧に要望を伺いながら事業所として出来ることを説明している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、アセスメント時にはこれまでの生活歴や習慣などについてセンター方式シートを活用して情報把握に努めている。	家族にはこれまでの暮らし方や生活への拘りなど、センター方式のシートを用いて、これからも守りたい個性、価値観などの情報を伝えてもらい、利用者の望む生活が継続出来るよう努めている。またケアマネージャーや利用されていた事業所からも情報を得て、アセスメント表に丁寧に落としながら、利用者の思いを汲み取るよう把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング、アセスメント時にその方の心身状況について検討し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族などから意向を確認しモニタリングを実施することでその方に合ったケアプラン作成を行っている。	入居時にセンター方式の一部に家族より記入していただき、利用者の馴染みの生活や暮らし方を把握している。また、利用者の入居し始めた1週間を大切にしながら、本人のこだわりや思い、大切にしている事柄の確認、家族の思いなど同意を得て検討の場を持ち作成している。継続的にモニタリングを行い実施表で確認しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を行い、気づいた事など記録し情報共有を行っている。また、インシデント報告書を活用し変わった出来事、危険など思った内容について記入し周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状態に合わせ必要時には他部署に相談、協力連携に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域で開催されている習字教室などに参加していたお客様もいたが、現在はコロナ禍で参加行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望している医療機関、かかりつけ医に受診をしてもらっている。	入居前からの本人・家族が希望する医療機関やかかりつけ医に家族送迎で受診を継続している方が多く、事業所では本人の状態や状況を連絡票に記入して、医師との関係性を大切にしながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違ったことがあれば職場内の看護師にすぐに相談している。必要に応じて臨時受診の対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は早期に退院できるよう医療機関と連携を行っている。退院前カンファレンスに参加し退院後の対応について情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向の確認を実施する。花水木で最期を迎えたいと希望あった場合は看取りについて支援するように努めている。	入居時、「看取りについての事前意思確認書」でチェック項目に記入してもらい、事業所で出来る事を紙面を通して説明しながら家族の意向を確認している。法人、事業所の中でも学びは継続して取り組んでいる。開所11年目を迎えているが、現在、まだ看取りは行っていないが、丁寧に家族との話し合いが出来るよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートがあり対応をおこなっている。会議等で読み合わせを実施している。	急変時対応や事故発生時対応について、フローチャートを作成し、定期的に見直している。吐物処理時訓練などに職員が参加、初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。また、事故発生時報告書に管理者のコメント記入し、職員会議での読み合わせ、職員全員の確認印等、職員が実施することで共有に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害等を想定した避難訓練を実施している。地域の方にも参加して頂き、意見等ももらい協力体制を築いている。	水害を想定し、1階の居住生活の場所から2階の特別養護老人ホームへと避難訓練を実施し、報告書や写真等で記録を整理している。その結果、職員の中で持ち出し物の役割など、課題や検討内容も出てきている。今後も見直しや予測などを行いながら実践的な避難訓練を継続することが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を実施し、プライバシーを損ねない対応を実施している。	「個人情報保護法」に関する研修や勉強会を行っている。契約書の中にも「個人情報の使用に関わる同意」や「秘密の保持」の項目がある。	様々な権利やプライバシー保護を主張することが難しい利用者の支援を行う職員は、サービス提供時のみならず、日常生活へのケアや言葉かけ等、常に「人としての尊厳保持」が求められている。今後は、「プライバシー保護に関する研修」を継続的に行い、不適切なケアや言葉使いなど職員の気づきを研修やマニュアルに活かし作成、整備されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立表を作成する際にお客様から希望を聞き取りメニューに反映させている。希望のメニューの時にはお客様に喜んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の希望や入浴の希望に合わせて対応している。その方が好きな事ができるようにクリエイション活動や歌などを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にはご本人と一緒に着替えを準備することで好きな服を選んでもらったり、選ぶのが難しい方には職員の方から提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューを実施している。メニューの味見をしてもらったり、片付けなどを一緒に行っている。	野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、利用者がそれぞれのことへ参加をしながら職員と共に準備やあと片付けに参加している。コロナ禍の今年は外食等少ない状況であったが、誕生会でのケーキ作りや季節の行事等、いつもの年のように実施している。毎日の食事の機会を利用者と職員が参加して楽しめるよう心掛け、家族への便り等で伝え、安心の声をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の目安や食形態、嫌いな物等を表に習慣に応じた支援を行っている。水分摂取量は毎日記録し摂取量がいつもより少ないお客様には随時水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や歯磨きがきちんと行えるよう声掛けしたり、必要に応じては介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表などを活用しトイレ誘導を行ったり、そわそわした様子がある方にはさりげなくトイレ誘導を行っている。	朝食時、排便対策としてヨーグルトを提供している。排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう声掛けや誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳の提供を行っている。牛乳が飲めない方にはヨーグルトの提供を行っている。水分摂取の声掛けや、散歩のお誘いも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせた入浴介助に努めている。時には入浴剤などを入れて楽しんで頂いている。	週2回を目安に入浴を支援している。足浴したり、入浴剤や季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんだりして季節の雰囲気を楽しんでいただけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室だと不安になられるお客様に安心して午睡できるようコタツにあたってもらったり、必要に応じて添い寝などを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧表にてお客様の服用している薬、用途について理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランにその方に合わせた楽しみの提供を行えるよう記載している。楽しみの継続ができるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前よりも外出する機会が減少したが、春にはお花見ドライブ、秋には紅葉ドライブを続けている。良い気分転換の機会となっている。	コロナ禍の中でも、感染対策を行いながら車で花の季節、紅葉の季節などにドライブで外出支援している。ドライブ時には、お気に入りの服を着たりして、喜びの時間として過ごしている。いつも散歩している方や春の来る日を待ちかねている方が廊下を歩きやすいよう、また時々休めるよう腰掛けやソファが置かれ配慮がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は自己責任で行ってもらっている。必要なものがあれば立替購入を行っている。自分でお金を持っていたいというお客様が数名おり、移動販売や自動販売機を利用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様やご家族様からの希望時には電話でやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内は季節を感じて頂けるよう四季に合わせて飾りなどの設えを行っている。冬にはコタツを設置し暖をとられているお客様もいらっしゃる。	季節の飾り物や設えものや思い出の写真が、車椅子利用者の目線の高さや見やすい大きさに揃えられて掲示されており、居心地のよい共有空間に配慮が窺える。各ユニットごとに清潔に清掃され、それぞれの生活への配慮が感じられる。利用者と職員が共に作る生活空間が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の風景を見られるよう椅子を設置し気の合うお客様同士がお話をしたり、畳スペースで気ままに休めるよう空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や置物などを持ってきていただき、居室でも自宅と変わらない環境で過ごせるよう工夫をしている。	居室の清掃は職員と利用者が箒やモップを使い掃除したり、利用者が出来ることや身の回りの整理を見守りながら支援している。ペット・洗面台は事業所が用意し、自宅から持参した整理筆筒やテレビなど、それぞれ使い慣れたものや写真などが見やすく使いやすいよう、利用者が動きやすいよう、配置され居心地よく生活できるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレだと分かるよう表札を付けたり、箒など掃除用具をしまっているドアにイラストを貼ることで自由に使って頂けるよう工夫をしている。		